

## 平成30年10月教育委員会定例会 会議録

平成30年(2018)10月24日(水)午後2時、出雲市教育委員会定例会を庁議室に招集した。

### 1 会議に出席した委員

教 育 長	榎 野 信 幸
教育委員(教育長職務代理)	松 浦 剛 司
教 育 委 員	小 豆 澤 貴 洋
教 育 委 員	水 陽 子
教 育 委 員	錦 田 剛 志

### 2 説明のため会議に出席した者

教育部次長(教育施設課長)	金 山 隆 司
子ども未来部次長 (保育幼稚園課長)	坂 本 伸 仁
教 育 政 策 課 長	渡 部 祐 子
学 校 教 育 課 長	金 築 健 志
児 童 生 徒 支 援 課 長	児 玉 弘 之
学 校 給 食 課 長	金 森 真 治
出 雲 科 学 館 長	山 本 利 明
児 童 生 徒 支 援 課 課 長 補 佐	渡 部 俊 樹

### 3 会議の書記

教 育 政 策 課 課 長 補 佐	常 松 晃 好
-------------------	---------

### 4 傍聴者

1人

## 開会

(榎野教育長) 只今から、平成30年10月出雲市教育委員会定例会を開会します。本日の会議はお手元に配付しております日程のとおり行います。

### 1 教育長行政報告

(榎野教育長) それでは、教育長行政報告を行います。

(榎野教育長) (以下、報告項目のみ掲載)

#### (1) 前回以降の動向

H30.9.27	市議会最終日
H30.9.28	ポイ捨て一掃大作戦
H30.10.2	外国語教育研修会
H30.10.3	学校訪問 10.4、17、26
H30.10.7	出雲駅伝開会式
H30.10.8	出雲駅伝
H30.10.10	管内教育長会
H30.10.10	県学力育成会議
H30.10.16	保幼小交流の日
H30.10.18	中国地区都市教育長会 ～10.19
H30.10.21	ノーベル物理学賞受賞梶田隆章氏講演会
H30.10.23	乙立小・朝山小再編統合推進委員会
H30.10.24	定例教育委員の会議

#### (2) 今後の予定

H30.10.25	いじめ問題対策委員会
H30.10.27	同和教育研究発表会(檜山)
H30.10.28	隣保館まつり
H30.10.29	管内教育長会
H30.10.30	校長会懇談会
H30.10.31	県小中学校養護教諭研究大会
H30.11.1	県教職員永年勤続表彰式
H30.11.1	県教育功労者等表彰式
H30.11.2	市議会全員協議会
H30.11.2	新規採用教職員連絡協議会
H30.11.6	校長の会議
H30.11.8	ICT活用教育モデル事業授業公開
H30.11.9	中国地区小学校長会研究大会
H30.11.9	科学館運営理事会

H30.11.16	放課後子ども教室・児童クラブ研修会
H30.11.16	中学生議会
H30.11.16	平田西部5校再編統合推進委員会
H30.11.17	神戸川小学校開校50周年式典
H30.11.18	青少年育成推進大会
H30.11.19	まちづくり懇談会(稗原)
H30.11.20	奨学事業運営委員会
H30.11.20	人権作文・ポスターコンクール表彰式
H30.11.22	市職員永年勤続表彰式
H30.11.22	健康教育研究発表会(高浜)
H30.11.22	医師会学校医部会との懇談会
H30.11.27	社会教育計画策定委員会
H30.11.27	まちづくり懇談会(佐田)
H30.11.28	定例教育委員の会議

(**榎野教育長**) 只今の報告で、質問等がありますか。

(**各教育委員**) ありません。

## 2 会議録の承認

(**榎野教育長**) 次に、会議録の承認に入ります。前回9月定例会の会議録について、何か意見がありましたでしょうか。

(**各教育委員**) ありません。

(**榎野教育長**) 特に意見等ありませんので、9定例会の会議録については承認します。

## 3 報告

(**榎野教育長**) 次に、報告事項に入ります。報告(1)「学校訪問について」を、教育政策課 渡部課長 に説明願います。

(**渡部課長**) 資料に基づき説明

(**榎野教育長**) 学校訪問は最終日である26日が残っていますけれど、ここまでのご感想をそれぞれお聞かせいただきたいと思います。

(**松浦委員**) 英語の授業について、先般のモデル校における外国語教育授業公開を見た後だったので、少しギャップを感じました。モデル校は児童数も少ないので、ああいう

雰囲気のできるのでしょうか、大きい学校で同じようにやるとなると、少し工夫が必要かなと感じました。そういったことを見ることも学校訪問の意義があるなど思った次第です。

**(小豆澤委員)** これまでも何回か学校訪問に参加している中で、学校によって、建物の古い・新しいはあるにせよ、施設の面で差があることに疑問を感じました。それと、健康についての各学校の取組をお知らせいただきたいといえますか、そうしたことの見学があってもよいかと思いました。毎週、「校内マラソン」を行間に実施していたりだとか、そういった独自の取組も分かるんですけど、良い取組が水平展開しているようにも見えないですし、各校の健康教育の取組はどのような特色があるのかというようなことに興味を持っています。

**(教育長)** それぞれ全ての学校が「体力向上計画」を作成しており、スポーツテストの結果等を踏まえ作成された計画に基づき取り組まれています。後ほど報告に出てまいります「健康教育研究発表会」での発表も聞いていただきますと、学校における取組の一端がお感じいただけると思います。いずれにしても計画がありますので、そこから抜き出して整理すれば、全体的に眺めることはできます。

**(水委員)** 各学校に設けられた日本語の教室や自閉症・情緒障がい特別支援学級とか、院内学級、若松分校にも伺い、改めて義務教育の受け皿の範囲・広さについて、今は要望が多様化する中で、細かに目を配らなければならないんだなということを感じました。それから、新規採用教職員の授業も見せていただきましたが、教室でのやり取りを見ていると、そのクラスの雰囲気が良く分かるんですけども、2学期にもなるのもう少し落ち着きがほしいなと思った学級もあったという印象です。

**(錦田委員)** 私は10月3日、4日の2日間のみでしたけれども、出雲の子どもたちは、すごく素直な子が多いといえますか、講演等で他の市町村の学校に行くこともあるんですけども、元気に挨拶を返してくれるところとそうでないところとありまして、出雲の子どもたちは挨拶も大きな声でできますし、表情も非常に明るくて、どの校長先生からも、今回伺った学校については、児童生徒たちが落ち着いているとのことで、安心したところです。様々な問題もあるとは思いますが、少なくとも視察した限りでは、学校の雰囲気はすごく落ち着いていて、子どもたちも礼儀正しくて、この傾向が続くと良いなと思いました。

**(榎野教育長)** ありがとうございます。それでは、次に、報告(2)「平成30年度健康教育研究発表会について」を、教育政策課 渡部課長 に説明願います。

**(渡部課長)** 資料に基づき説明

**(榎野教育長)** 最近、睡眠のことに着目した取組の話題が結構あって、良いことだと思

っているんですけども、そういったことに関して何かございますか。

**(松浦委員)** 以前の学校訪問で、中学生の睡眠時間の話を校長先生から伺ったときに、現実問題、中学生でそんなに睡眠時間とれないのでは、と思った記憶があります。

**(小豆澤委員)** 自分の子どものころを思い出してもそんなに睡眠はとってなかったと思います。

**(槇野教育長)** 専門家の話では、例えば小学校高学年で9～10時間とか、中学生で8～9時間とか言われていますけども、現実には難しいと思いますし、一方で、最近よく言われているのが「睡眠負債」ですか、睡眠不足が負債として溜まっていくというような話もありますので、睡眠時間の話ばかりではなくて、規則正しい生活とか、質の高い眠りとか、そういったところを考えていくべきだと思います。

**(小豆澤委員)** 学校で睡眠時間を提唱されることは、根拠は分かりませんが、そのとおりだろうとは思いますが、共働き世帯である場合、夕食を18時にとることもなかなか叶わない中、現実とは乖離しているなど感じます。

**(槇野教育長)** そのあたりのヒントもあるかもしれませんが、ぜひ高浜小学校の健康教育発表会にお出かけいただきたいと思います。

**(槇野教育長)** 次に、報告(3)「平成30年度全国及び市学力・学習状況調査結果分析及び改善策について」を、学校教育課 金築課長 に説明願います。

**(金築課長)** 資料に基づき説明

**(槇野教育長)** 只今の、報告(3)について、何か質問等はありませんか。

**(錦田委員)** 学習状況改善への取組では「家庭におけるメディアとの付き合い方」に関する内容が多く見られますね。我々の時代は「テレビっ子」といわれる時代でテレビとどう付き合うかということでしたけども、今は、言うまでもなくSNS含めインターネット等、多様化したメディア・媒体が浸透していて、それらが学習の妨げになっているというような内容が一番目立っているなと思いました。これはしかし、学校教育におんぶに抱っこできる話ではなくて、やはり家庭教育の問題ですよ。今すぐ改善策はないのかもしれませんが、根本的に児童生徒がメディアとどう向き合うべきか、「家庭教育におけるメディアとの接し方」について、教育委員会としても何ができるか研究していく余地があるなと思いました。

**(槇野教育長)** ほとんどの学校で、「チャレンジ週間」とか「振り返り週間」とか、いろいろな名称で、1週間の起床から就寝までの間の学習時間やメディアとの接触時間等につい

てそれぞれ目標を立てて、保護者のコメントを求めるなどしながら、取り組んでいます。その週間が済んでしまうと、また元に戻るということもありますけども、子どもたちの自覚を含めて、家庭の方といっしょに取り組んでもらい、気づいてもらうという意味で、やっているところです。もうひとつは、学習状況調査結果において、メディアの時間等生活習慣と学力テストの正答率には相関関係がありまして、そのあたりのことも保護者の皆さんにできるだけお伝えするようにしています。そのことについて紹介をお願いします。

**（金築課長）** 勉強に辞書を利用している子、新聞を読んでいる子、地域の行事に参加している子は正答率が高いなどの結果が出ています。

**（槇野教育長）** ですから、「勉強しなさい」とか「家庭学習の時間を増やしましょう」といったことばかりでなく、違うアプローチにおいて、そういった家庭で取り組んでいただくとういことを整理して保護者に対してお知らせするようにしてはどうかと思います。

**（小豆澤委員）** 今の家庭へ伝えるという話なんですけど、現状において、手段としては子どもを介した「お便り」や「連絡帳」でしか知ることができないんですよね。学級に30人も児童がいれば、先生がひとりひとりに対しては細かに対応できないということを保護者として実感していますので、家庭と学校とはなかなか連携できないというのが実際ではないかと思います。あと、ペアやグループで意見交換をする授業が最近増えていて、そういった中で、相手の話をよく聞くという点においては成果を認めるけども、自分の気持ちを伝えるということがまだ足りないと分析している学校もたくさんあって、何か上手にやっている学校のやり方を他の学校に伝えられるようにできたらより良いと思いました。また、毎時間の授業において学習の「めあて」を設定してちゃんと児童生徒へ伝えて、その「めあて」が達成されたかどうかを振り返る授業をするということが書いてあって、我々の子どものころもそうだったか分からないんですけど、多くの学校がそういうふうにしていらっしゃるので、これが児童生徒へ伝わっているのであれば、今の授業の中身は濃いいえるのではないかと思います。このことと学力との関係は分かりませんが、これについても結果が良いところとそうでないところと相談されれば良いのではと思います。もう1点、中心市街地でない学校の方が地域教育の取組が濃いと感じました。

**（槇野教育長）** 先生がひとりひとりに対しては細かに対応できないということに関しては、こちらでも現状を把握して、対応していきたいと思います。

**（槇野教育長）** 次に、報告（4）「ICT活用教育授業公開について」を、学校教育課金築課長 に説明願います。

**（金築課長）** 資料に基づき説明

**（槇野教育長）** 只今の、報告（4）について、何か質問等はありませんか。

**(松浦委員)** 道徳の授業でどういうふうにICTが活用されるのか想像がつきませんね。楽しみにしています。

**(槇野教育長)** 初めての取組になりますので、ぜひご参加ください。

**(槇野教育長)** 次に、報告(5)「平成30年度中学生議会について」を、同じく学校教育課 金築課長 に説明願います。

**(金築課長)** 資料に基づき説明

**(槇野教育長)** 只今の、報告(5)について、何か質問等はありませんか。

**(各教育委員)** ありません。

**(槇野教育長)** 次に、報告(6)「平成30年度(1学期)出雲市立小・中学校における問題行動等について」を、児童生徒支援課 児玉課長 に説明願います。

**(児玉課長)** 資料に基づき説明

**(槇野教育長)** 只今の、報告(6)について、何か質問等はありませんか。

**(水委員)** 不登校あるいはいじめの問題における学校配置スクールカウンセラーの利用率はどれくらいですか。

**(児玉課長)** 率のデータは持ち合わせておりませんが、スクールカウンセラー、それからスクールソーシャルワーカーの活用については、どの学校からも「助かっている」との報告を受けています。配置時間が足らず何とかならないかという要望をいただいている学校もあります。

**(松浦委員)** 報告の様式が変わったこともあっていじめが増え続けているんですが、内容の変化など所感をお聞かせください。

**(児玉課長)** 確かに、いじめの認知件数は右肩上がりに増えています。やはりそれは、学校が早期発見、早期対応ということで組織的に取り組もうとしている表れではないかと思います。ただ一方で、認知件数が増えたことが全て肯定的な評価であるかということでもなくて、中身を見ますと、重大事態に発展したり、いじめが解消せず継続しているというケースもありますので、日々の観察で軽微なところから察知して対応していくことが大切だと感じています。

**(松浦委員)** 加害者の親への報告なども増えていますか。先生方だけではなく親も巻き

込んだ対応ということはされているのでしょうか。

**(児玉課長)** 今年度からいじめの報告事案の様式を変更しまして、一連の流れが目で見分分かるようにチェックリストを作りました。その中で、加害者及びその保護者への指導という欄もございますので、そこが抜け落ちていた場合、市教委から学校へ問い合わせますし、学校においても、提出する前の段階で、そのところが不十分であったので指導継続中であるなどの書きぶりも見られますので、そういう点は、以前と比べて被害者だけの視点ではなくて、加害者への指導もしっかりするようになったと感じています。加害者及びその保護者が被害者に対して心から対応されますと、事態も解消するのですが、その点が不十分ですと、長引くケースが見られます。

**(松浦委員)** 分かりました。それと、盗みが急増していますが、これはどういう状況ですか。

**(児玉課長)** 特に小学校1、2年生が10人報告されていますけども、友達の物が欲しくなって拝借したということが多数報告されています。正直言って今まではこうした事例が報告されてこなかったと思いますが、今年度、県教委がかなり細かいところまで報告するよう指導された結果の表れと感じています。万引きは少ないです。ないわけではありませんが。

**(槇野教育長)** 気になっているのは、不登校の児童生徒数が大幅に今年度増えていて、40%近い増加率だと思いますけども、原因がつかめていません。この後、伸びが止まって、結果が前年並みという数値になる可能性もありますし、このまま増え続けるとは思いませんけども、ちょっと心配しております。減少傾向であったのが、この3年ほど増加に転じていまして、県内他市の状況も先般調べましたが、同じような増加傾向がみてとれましたので、全県的、全国的な傾向と感じています。数を減らしていく対策、適切な対応は当然必要ですので、原因及び背景の分析もしながら取れる対応をしていきたいと思っています。市での現在の取組は対症療法的な取組になりますので、そこに至るまでのところをこれからどうやって強化していくかということで、今年度の後半から来年度に向かって新しい事業を立ち上げて、学級作りとか、コミュニケーション力を高めるとか、そういう基本のところの改善をしていきたいと思っています。従来の対応も当然やっていくわけですけど、そういったところもしっかりやっていければと思っているところでございます。

**(小豆澤委員)** 不登校に関連して、先ほどの調査結果分析において、「学校の授業が将来の役に立つと思っている」という項目を長所として取り上げている学校は良いと思いますが、項目にあがってこない学校の児童生徒はどう思っているのか分かれるのかなと思います。学校の授業が将来役に立つと伝えられている学校の伝え方が他の学校にも備わって、児童生徒一人ひとりもそう実感できればもっと学校にも行くのではないかと考えて見ていました。

**（槇野教育長）** 今のは学習状況調査の項目で入っていますので、全ての学校において何%であるかということは分かりますし、市全体の平均も出ますので、そういったものも見ながら必要なことをやっていかなければならないと思います。

**（水委員）** 先ほど睡眠の話がありましたけれども、結局、感情のコントロールや他人とのコミュニケーション能力などと、食事、睡眠、生活習慣、メディアとの接触状況といったことと、学力・問題行動・不登校全てがリンクしたかたちの何か統計的なものを出すことができ、見ていくことができれば、答えに近づくのかなと思いました。

**（槇野教育長）** なかなか難しいですけど、今おっしゃった視点はひとつのアプローチであると感じます。

**（槇野教育長）** それでは、次に、報告（7）「施設整備の状況について」を、教育部 金山次長 に説明願います。

**（金山次長）** 資料に基づき説明

**（槇野教育長）** 只今の、報告（7）について、何か質問等はありませんか。

**（各教育委員）** ありません。

**（槇野教育長）** 次に、報告（8）「学校給食における異物混入について」を、学校給食課 金森課長 に説明願います。

**（金森課長）** 資料に基づき説明

**（槇野教育長）** 只今の、報告（8）について、何か質問等はありませんか。

**（各教育委員）** ありません。

## 4 その他

**（槇野教育長）** 次に、「その他」に入ります。教育委員会の後援・共催事業について、教育政策課 渡部課長に説明をお願いします。

**（渡部課長）** 資料に基づき説明。

**（槇野教育長）** 只今の報告について、質問等はありませんか。

**（錦田委員）** 後援・共催事業の審査の基準について、後でけっこうですので、拝見させ

てください。

**(渡部課長)** 後ほどご覧いただきます。

**(槇野教育長)** その他、委員の皆さま、あるいは事務局の方で、何かございますか。

**(小豆澤委員)** 1点確認させていただきたいのですが、外国籍を持つ児童・生徒は、日本において義務教育の対象者ですか。

**(金築課長)** 対象者ではありません。人道的措置ということです。

**(小豆澤委員)** 人道的措置ということで進んでいるのだらうと思いますが、そういったことがこの出雲市で相当に議論されてきたものなののでしょうか。

**(槇野教育長)** 議論の余地はあまりなくて、文科省から受け入れに関する通知がなされ、その通知に従い当たり前に受け入れてきたというところですが、しかしながら、確かに、人数が少ないときには違和感なくやってこれたと思いますが、急増しましたので、様々な問題、悩みが生じてきているのも事実です。

**(小豆澤委員)** これだけ増えてきている現状において、いつまで学校の先生に全ての負担を負わせるのかといったことも議論されるべきではないかと思ったものですから、確認をさせていただきました。

**(槇野教育長)** 島根県内においては出雲市が突出していますし、全国的に見ても多いところは偏っていますので、なかなか全国的な問題としてこれまで扱われなかったのではないかと思います。最近ではマスコミでも取り上げられてきています。要は、国にもっとしっかり統一的なものとして対応してほしいという思いはあります。今、おっしゃったこともそういった意味合いではないかと思えますけれども。

**(小豆澤委員)** そのことに加えて、外国人労働者を採用していく企業側にも問いかけをしていかないといけないのではと感じています。

**(槇野教育長)** 分かりました。日本語指導の制度面についてもまた議論をお願いしたいと思います。ほかにもございますか。

**(水委員)** 小学校の統合再編後の人間関係について、いじめまで発展しなくてもそういった事例がどのくらいあるかということや、スクールカウンセラーとかスクールソーシャルワーカーの需要がどのくらいあるのかといったことを教えていただけませんか。やはり、統合後のケアというのは重要だと思いますが、統合後1年間は教職員の数も増えたりということがあったんですが、たった1年でスパッと元に戻っている状況ですので、

もう少し長いスパンで考えていただいた方が、良いのではないかと思います。

**(槇野教育長)** 統合後の加配を5年間はやってほしいということをずっと主張し続けています。国の制度では5年という数字が出ています。だけど1年しかないのはおかしいのではないかと、これを県へ言い続けているところです。引き続き言い続けていきたいということと、スクールカウンセラーにつきましては、今年度から全ての小学校に時間の配分がされました。一番少ないところで20時間ですけれども、大きな進歩と受けとめていまして、こここのところの傾向からすると、スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーの配置の時間というのは、来年度も増えていくだろうと思っています。それから、統合後の学校のスクールカウンセラーの配置時間は他の学校よりも多めに配分しています。

**(水委員)** それもやはり1年ですか。

**(槇野教育長)** 「統合」というだけであれば1年です。しかしながら、学校の状況もみて、配分時間を決めています。

**(児玉課長)** 学校の要望を吸い上げて、教育委員会で精査したうえで、県へ具申しています。

**(水委員)** 分かりました。また教えてください。

## 5 次期教育委員会の開催時期

**(槇野教育長)** 次期教育委員会の日程ですが、11月28日(水)の、午後2時から、出雲科学館会議室で開催いたします。

## 閉会

**(槇野教育長)** 以上をもちまして、平成30年10月出雲市教育委員会定例会を閉会します。

(15:55) 定例教育委員会閉会